

CAVOK V 航海日誌 9

2012 年 8 月 29 日 (Venezia) - 9 月 13 日 (Parmizana)

2012 年 9 月 15 日松崎義邦氏メール (Parmizana, Croatia より)

今年の後半のヨーロッパ航海が始まりました。

8 月 19 日に一旦帰国して 28 日にヴェネチアに戻りました。帰国中にはインター三田フェスティバルに A 級 & ファミリーチームのメンバーで参加させて頂き優勝のおまけまで頂戴しました。

ヴェネチアからは小田切 (29 年卒) 夫妻、上田佐和子 (45 年卒) そして私の全日空時代の同期の関矢夫妻が集合して賑やかなスタートになりました。30 日までお天気が良かったのですが生憎と出港予定の 31 日から天気が崩れ予定通り出港出来ず、折角アドリア海の横断を楽しみにしてイタリアに来た関矢夫妻はフェリーでクロアチアのロヴィニに行く羽目になってしまいました。

日本は大変暑かったのですがこちらは秋の気配を感じます。9 月 2 日に天気が回復したのでやっとヴェネチアを出港することが出来ました。

滞在中小田切さんが「出港を待つヴェネチアに出会う秋」とヴェネチアでお天気待ちの気持ちを俳句に詩ってくれました。

その後 Pula, Losinj, Simunj, そして Zadar ではレンタカーを借りて世界遺産でもあるプリトヴィッツエ湖群国立公園に行って楽しみました。ドライブの途中では偶々村の集会のための豚の丸焼きをやっているビストロを見つけクロアチア名物の豚の丸焼きを味わう事が出来ました。あまりに美味しかったのでお土産に買って帰りました。

Lavsa では、Korunati 国立公園にある Lavsa 島の入り江に停泊して泳いだり、たった一軒のレストランで美味しいオラーダ (鯛) のオイル焼きを味わいました。

島の頂上に登ってみると 360 度方向の眺望で、石灰岩で出来た砂丘のような Korunati 諸島の島々、青い空、きらきら輝く湖面のようなアドリア海の景色が美しいコントラストを醸し出し素晴らしい情景でした。

次の Torgir は旧市街地全体が世界遺産の町でした。島全体が城壁で囲まれた旧市街を海の門の南門から訪ねました。こちらは秋の季節なのか、折角の良いお天気も 13 日以降崩れるということで Hvar で待機する予定をしましたが、南風の強風で Hvar はうねりが入り心地良くないとの事で Hvar から 2.5NM 離れたパクレニ諸島の Palmizana に停泊しました。ここは静かな自然の入り江の中にあるマリーナで沢山のヨットが入港していました。

天気が回復次第 Korucula に向けて出港する予定です。

Palmizana にて、松崎義邦

航海日誌 9

8 月 28 日(火)Tokyo~Venezia 晴れ

10日振りに日本よりヴェネチアに戻る。

全日空の入社同期の関矢夫妻が CAVOKV でアドリア海のセーリングを 1 日楽しむためにヴェネチアに来ているので空港からの帰りに S.Elena の水上バスの駅で待ち合わせして一緒に CAVOKV 迄行く。久しぶりに CAVOKV に会いホットする。

空にしておいたので艇には何もないので関矢夫妻と暫く艇で話した後、近くのピザーリアに夕食に出かける。この辺りは静かな住宅地で地元の人だけが来るような店だが前回行ってマルガリータが美味しかったので又行って見たが前ほどの味ではなかった。チーズとポモドーロが少なかったような気がする。

久しぶりの関矢さんとの再会と初めて奥様とお会いして話が盛り上がる。別れた後、久しぶりの CAVOKV で熟睡する。

8 月 29 日(水)Venezia 晴れ

出港準備と今日からのゲストの受け入れ準備をする。右舷航海灯を前回ジェネカー使用中にひっかけて飛ばしてしまったので新たに取り付ける。ジブシートを交換したく、この周辺のマリンショップを探したが大きな店がなく所望のシートが見つからず交換できなかった。

部屋の掃除をしたり布団を干したり、買い物をしたりして、夕食後 22:30 着予定の上田佐和子さん(45 年卒)をマルコポーロ空港に迎えに行く。飛行機が遅れて23時過ぎの到着になったが上田さんは疲れた様子もなく元気に到着口に現れたのでほっとする。

陸上バスでローマ広場迄行きそこからヴァポレット(水上タクシー)で運河をセント・エレナに向かうがヴェネチアの運河の夜景がきれいだった。

艇に着き長旅ご苦労さんで一杯飲み再会を祝す。上田さんは毎年参加してくれて今年は3年目でアテネまで一緒だ。



8月30日(木)Venezia 曇り

今日まで天気は良かったが、生憎と天気予報は出港予定の31日から暫く前線が停滞して悪天予報になっている。

関矢さんとは31日にVeneziaからRovinjまで一緒に航海をする予定だが天候が思わしくなく31日に帰港出来ないかもしれないので午後2時間程CAVOKVを出して運河をサン・マルコ広場まで周遊する。運河には大小多数の船が行き交い360度見張りが必要だった。

今日は小田切夫妻(29年卒)が到着する日なので午後3時前に戻り空港に迎えに行く。予定通りの到着でお元気に到着されたご夫妻を迎える。長旅を全く感じさせないお元気なお二人には敬服する。

ここでハプニングが起きて空港からローマ広場行きのバスに乗って暫くして小田切幸子さんが小田切さんの手提げバッグが無いのに気付いて次の停留所で直ぐ降りて空港まで戻ることにした。原因は私が空港で小田切さんの手提げバッグを預かりそれをバス停の椅子に置き忘れた為だ。空港に戻るバスも直ぐ来なく、タクシーもつかまらず、仕方なしに近くの店に飛び込み状況を離して店のお客さんに白タクをしてもらい空港に戻る。

幸いに椅子に居たお客さんが空港に忘れ物として預けていてくれ無事手元に戻る。私としては大事なものが入っているはずの手提げバッグと思って気が気でなかったが中身は何とお菓

子であった。それにしても旅の初めの事件が無事解決出来てほっとした。

艇に着いてから小田切夫妻の歓迎会を関矢さん交えてビールで乾杯した後、マリーナ近くのレストランに行き全員で会食する。大先輩がこれからご一緒なので楽しみだ。夜インターネットで天気を調べたところ明日から悪天になり明日の出港は取りやめにする。

8月31日(金)Venezia 曇り時々雨

朝小田切幸子さんがいつも自宅でやっている NHK のラジオ体操を艇でもやることにしてテープを聞きながら全員でラジオ体操をする。体操の後、朝食をコックピットでしていると驟雨が来る。幸いにビニトップとドジャーで雨に濡れることはない。

関矢さんは今日我々と一緒に CAVOKV でアドリア海をロビニ迄行く予定であったが CAVOK V の出港を取りやめたので 17 時発のフェリーでロビニに行くことになった。折角アドリア海のセーリングを楽しみにしてきたのに申し訳ない。その関矢さんが忘れ物を取りがてら出発前に艇に寄ってくれ、差し入れを届けてくれた。関矢さんの奥様の美奈子さんは内科医で私が下痢気味ということで薬まで届けてくれた。

小田切さんも上田さんもヴェネチアは 3 回目との事で良く知っているのでも前回に行かなかったところを観光ということで、ここからヴァポレットで一駅のリド島に渡る。ここはワイキキ、リベイラに並ぶ世界有数のリゾート地と云われている。又ここはヴェネチア映画祭の会場になるところで有名でもある。

リド島で昼食を取り本島にわたりカルパチョの傑作「サン・ジュルジョの伝説」「聖トリファン」の絵画が並ぶスクオータ・ダルマータ・サン・ジョルジョ・デッリ・スキアヴァーニの信者会を観る。因みに料理のカルパッチョはこの巨匠が由来である。ここでは由来の経緯は省く。

夜ロビニに着いた関矢さんに電話すると海面は白波が立ちフェリーも揺れたとの事でスタンバイして良かった。

9月1日(土)Venezia 曇り

今日も前線の影響で強風、大雨、雷注意報が出ているので出港を見合わせる。

朝ゆっくり船内で朝食をとり午前中はのんびり過ごす。お昼にカレーうどんを頂き、小田切さんと私は艇に残り幸子さん、佐和子さん、悦子は昨日観光出来なかったところに出かける。

小田切さんと艇内でお茶を飲みながらお話をしたり読書をしたりお昼寝をしたりしてのんびりと過ごす。

お天気は安定せず曇り空の中時折雨が降たりだ。30 日迄天気が良かったが暫く前線が停滞して天気は悪いようだ。明日が何とか一日だけ風も治まり雨も少ないようなので明日出港することにする。クラブハウスで清算をして 22 日間居た Diporto Velico Venezia を明日発つことにした。いつだか長居したマリナーを去るのは寂しい。

夕食は近くにある例のレストランで食べるよう計画してあったが生憎と予約が一杯で入れず。別のレストランに行く。簡単にピザ、スパゲティ、サラダで済ます。

9 月 2 日(日)Venezia～Rovinj(55NM)曇り時々晴れ

一週間ほど停滞気味の前線の影響でお天気が悪いが今日はその中で良い天気予報なので Rovinj に向かうことにする。

朝 06:40 に舳いを解き出ようとして前進したがキールが底につかえてしまい潮が上がるのを待たなければならなくなった。丁度大潮で 06:00 が干潮だったので 1 時間程待つようにマリナーのスタッフに言われる。地中海は潮の干満が少なくビスケー湾の時の様に潮を気にしていなかったのが失敗だった。

朝食をとりながら 1 時間程待ち 07:50 に出港する。1 時間程ヴェネチアのラグーンの中を機走してアドリア海に出る。久しぶりの海で気持ちが良い。北北東の風が 10 ノットほどでコースが東なのでクローズドリーチング気味で機帆走で走る。

小田切さん、上田さんと私の 3 人で 1 時間毎にウオッチを交代する。暫く悦子と二人だけだったのでいつも一人でウオッチをしていたがこれからは交代できるのでお昼寝もできる。途中風が 12～3 ノットになり帆走を楽しむ。

風が少し後ろに回りジェネカーを揚げることも出来たが、だんだん風が弱まり 5 ノット以下になったので諦めてジェネカーを降ろし機帆走にする。お昼はハムと野菜のサンドウイッチをスープとビールで頂く。

18:15 に旧市街の前にある入国用の棧橋に横付けする。他にも 1 隻ドイツ艇が横付けしていた。ポリス(イミグレーションは警察でやる)に行き入国を済ます。その後ハーバーマスター(海運局事務所)に行くが今日は遅くなったのでしまっていたので明日手続きをすることにした。

遅くなったので ACI マリーナ Rovinj に電話して入港が遅くなる旨伝える。8 月の初めに来たときは午後 2 時過ぎにはマリーナが一杯になっていたが 9 月に入ると空いているようでノープロブレムの返事でほっとする。19:30 に ACI マリーナに舫いを取る。

早速食事に出かける。美味しそうな魚があるレストランを探しそこで食べる。ムール貝、イカのグリル、シュリンプカクテル、シーフードサラダ、スズキのグリルをイストラ産白ワインで頂く。ムール貝の身は小さいが味は美味しくスズキのグリルもオリーブオイルを上手く使ってあり、すべてが美味しかった。

8 月 29 日が私の 67 歳の誕生日だったのでクロアチアに着いたのと私の誕生日を小田切さんがお祝いしてくれご馳走になる。又小田切幸子さん、上田さんからはムラーノのガラス細工のドルフィンをお祝いに頂く。感謝、感謝である。

艇に戻ってからは小田切さんがはるばる日本より運んできてくれた日本酒を皆さんで楽しむ。

9 月 3 日(月)Rovinj 曇り時々雨

朝食後旧市街に出かける。狭い大理石の道を聖エウフェミア教会までのぼりアドリア海と町を一望する。

下りは観光客相手の店が並ぶ道を降りる。女性人はきれいなオレンジ色の木綿のワンピースを購入していた。

14 時発のリム・フィヨルド行の観光船を予約してあったので観光船が就航する棧橋の前で軽くお昼を済ます。約 4 時間のクルーズで内陸に奥まったフィヨルドを少し紅葉した両サイドの山々の景色を見ながらのクルーズであった。



ここは牡蠣の養殖場がありフィヨルドの終点にはレストランがあり生ガキと白ワインを楽しむ。小さ目の新鮮で美味しい牡蠣だった。

18 時過ぎに艇に戻りジントニックで夕暮れ時を楽しみ夕食はそのまま艇にあるものを料理し

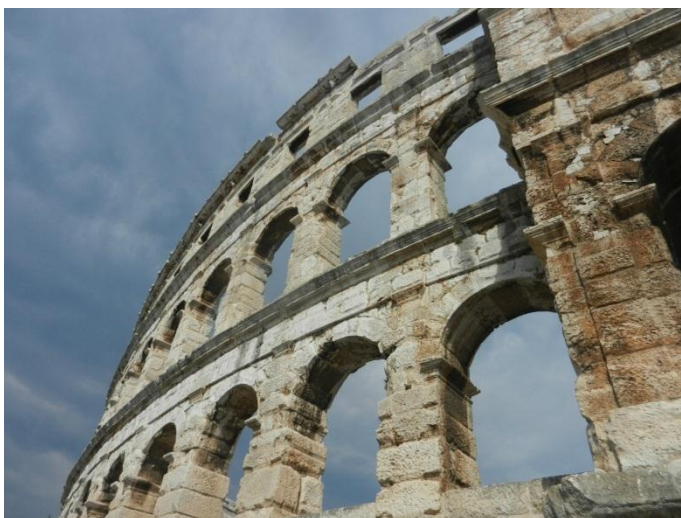
て頂く。きんぴらごぼう、マーボーナス、ハム、ニンジンの卵とじを日本酒で楽しむ。海苔と梅干しエビの佃煮でご飯を頂く。

9月4日(火)Rovinj ~ Pula(20NM)曇り

昨夜は稲光と雷雨が降ったが今朝は晴れ間が所々見える天気になった。

09:05に舳いを解く。北東の風10~14ノットで穏やか海面の中、片上りのセーリングに移る。プーラの入り江に入る前に国立公園のブリュリ諸島沖を通過して入り江の奥にあるACIマリーナプーラに13:25に舳う。ブリュリ島はユーゴスラビア時代のチトー大統領の別荘地があった所でもある。

マリーナからローマ時代の円形闘技場が見えるここも前回来たところで2度目になるので気が楽だ。



お昼が未だだったのでこれまた日本から運んできてくれた日本そばを冷えたビールで頂き、昼休みもそこそこにして町に出かける。闘技場、アウグストス神殿、旧市街を見て回る。

残念ながら市場は開いてなくスーパーマーケットで夕食の食材を買う。夕食はポテトとひき肉の重ね焼き、エビのタパス、カプレーゼを頂く。

9月5日(水)Pula 曇り時々雨

まだ天気がすっきりしない。何とか明日午後から晴れる予報が出ているので期待する。

マリーナ内にある、おばちゃんがいるコランドリーに洗濯物を出して昨日買えなかった市場に行く。途中の店がバーゲンセールをしていたので女性陣は買い物に忙しい。市場は賑わっていて新鮮な果物やエビ、ムール貝、白身の魚、酢締めイワシの魚介類そしてお肉を買う。

お昼は艇に戻りソーメンを頂く。異国の地でみんなで食べるソーメンは美味しい。午後女性陣は博物館と歴史館に行くが小田切さんと私は艇に残りノンビリする。小田切さんは釣りを

して小ぶりの鯛に似た魚を 2 匹釣る。皆さんが帰ってからマリーナにある見晴らしの良いレストランでジントニックを飲みながら夕暮れを楽しむ。

夕食は市場で買ってきたムール貝のワイン蒸し、ヒラメのムニエル、マッシュルームとパプリカのソテーそして小田切さんの釣果のお魚、最後はおかゆを頂く。白ワイン、焼酎を楽しんだ。

9 月 6 日(木)Pula ~Losinj (35NM)晴れ

今日は北北東の 20 ノット以下の予報だったので予定通り 08:30 に舳いを解く。プーラは奥の深い天然の良港であるが湾を出るまでに 30 分以上かかる。

暫く走りイストラ半島を越えてから風が強くなりワンポン、ツーポイントと早めにリーフしていく。さらに風が強くなり時折 30 ノットを超えるようになりジブ、メインともスリーポン迄小さくする。時折波をかぶるが上田さんはこの強風を楽しんでいるようだ。小田切さんもお元気で舵を握る。

片上に近いクローズドリーチであったが速度は 7 ノットをキープして快調な走りだ。ロシーニ島の影に入ってから波風が弱まってきてロシーニの湾に入ったらまったく静かな海面と風になった。

湾内のガソリンスタンドで軽油を給油してから一番奥にある Yachting YC Marina に係留する。前回ロシーニに来たときは入り口にある Artaturi 湾で錨泊したが今日はゲストが乗艇しているのでマリーナに入ったが残念がらここはトイレもシャワーもなく艇でシャワーを浴びる。

皆さんが町の観光に行っている間に潮で濡れたマット等の洗濯と艇を水洗いする。チャターヨットが沢山来ていて小さなマリーナだが賑やかだ。茹でエビをおつまみに一杯楽しんだ後、ポークのニンニク醤油焼き、ポテトサラダ、トマトのオニオンドレッシングを頂く。

9 月 7 日(金)Losinj~Sumini (27NM)快晴

シュミニに行くのに湾内から外に出る近道に橋が架かっている。それが開くのは 9 時と 18 時だけなので 9 時に合わせて出港しようとしたが北風が強く 9 時に合わせての出港は見合わせる。湾外の海の状況を見に行くが白波が一面だ。

マリーナの前のカフェでお茶を飲みながらゆっくりしてから、11 時過ぎに風も若干治まってきたので 11:30 に舳いを解く。周りのチャターヨットは殆ど出港してしまっていた。橋の開く時

間を逃したので約5NMほど余分に走ることになる。

湾を出るとまだ風が強く3ポンのジブだけで6ノットの速度が出る。1時間半程走りロシーニ島を過ぎたあたりから風が弱まり徐々にセールを大きくして静かになった海面を気持ち良く走る。17:00に天然の入り江の中にあるACI Marina Suminiの岸壁に着ける。周りには何もなく自然を満喫できる静かな入り江だ。

今晚はマリーナにあるレストランで、この島の名物である羊を食べる予定をしたが生憎と羊を食べるには予約が必要で食べる事が出来ずシーフードの盛り合わせとミートの盛り合わせを食べる。島の羊のチーズが微妙に美味しく地元の白ワインとマッチングした。

艇に戻り楽しい宴会が始まり小田切先輩は海の歌を歌ってくれる。

9月8日(土)Sumini~Zadar (25NM)快晴

艇から岸壁に渡る木の橋が海に流されてしまい暫くその板を探すのに時間を要す。幸い見つかかり09:30に舳いを解く。風は予報より強く一時30ノットを越す。

3ポントしたジブだけで帆走する。徐々に風が弱まりフルセールにして静かな湖面のようになったアドリア海を帆走する。そのうち風が北西に変わり我々は南に進路を取っているでジェネカーを揚げる。当初35NM先のSaliに行く予定だったジェネカーを張って行けるザダールに目的地を変更する。

大きな町のザダール旧市街地の川を挟んだ反対側のMARINA Zadarに15:00舳いを取る。係留後水上タクシーに乗って旧市街地に観光に出かける。前回も行ったがローマ時代のフォーラムの遺跡を見る事が出来た。又岸壁にはシーオルガンが岸壁の下から自然のメロディーを奏でていた。

夕食の買い物をして帰りは橋を渡ってマリーナに帰る。夕暮れのマリーナで生ハムのイチジク巻、サーデンの酢漬け、ニンジンのガーリックサラダ、胡瓜の和え物と鶏、ジャガイモのシチュー、ピンク玉ねぎとマッシュルームのライスを頂く。至福の時だ。

9月9日(日)Zadar 快晴

今日はザダールからレンタカーで内陸120kmにあるプリトヴィツェ湖群国立公園に行く。朝レンタカー会社に電話したらマリーナ迄車を届けてくれた。

クロアチアの海側は緑も少ない景色だったが内陸の山岳地帯を超えると緑が多く牧草地帯になり高原の景色に変化する。

お昼に地元のビストロを見つけ偶然に入るが、そこが当たりで豚の丸焼きをやっていた。

偶々そこで町の集まりがあるようで焼きたての豚の丸焼きを食べる事が出来た。味付け焼き具合素晴らしく美味しかった。



湖群国立公園では電気駆動のバスで上流まで上がりそこから滝で結ばれた湖群を散策しながら時には滝からのひんやりした飛沫を含んだ風を浴びながら歩く。

散歩道の終点から湖を電動船で渡る。森林が美しい所で疲れた体を、アイスクリームを食べながらベンチで休む。車で来ているので重いものも運べるので帰途にショップに寄るが巨大なショップでクロアチアの息吹を感じた。クロアチ名物のソーセージ含めてカート一杯に買い込む。

20時過ぎにマリーナに戻った。奥様方が早速夕食を作ってくれる。前菜は茹でエビ、ダルネシアンハム、オリーブ、マカロニサラダトマト添え、キノコのマリネ、ハウレンソウとマッシュルームのソテー、ダルメシアンソーセージとザウアクラウトを頂き、食後はヨーグルトケーキをクロアチア名物シロップをかけて頂く。

9月10日(月)Zadar～Lavsa(30NM)快晴

マリーナのオフィスが8時オープンなのでゆっくり朝食を食べて8時にマリーナの清算を済ませ出港する。

今日のコースはクロアチアの島々を抜けながら国立公園の Korunati にある小さな島の入り口にある Lavsa を目指す。生憎と風がヘッドになり機走でほとんどのレグを走るが最後のレグは湖の様な海面をクローズホールドで気持ち良い帆走をする。

途中の泊地を見ながら 14時30分に Lavsa の入り江のブイに舫う。早速テンダーを降ろし

島に一軒だけあるレストランに今晚の予約をしに行く。

その後海水浴を楽しみ、島の丘に登り 360 度見渡せる頂上でコルナティの島々を眺める。素晴らしい眺望で上から見る島々と間の静かな海が素敵なコントラストを描いている。ここには 12 個のブイがあるが夕方すべて舫われていた。

レストランは 19 時の予約をしてあったのでテンダーに 5 人乗って行く。オラーダ(鯛)、スカンピ、ポテトとサラダを注文してあったので直ぐ出てきた。

オラーダはオリーブを付けてグリルしてあり前回同様美味しかった。スカンピも身がしっかりあり程よいグリルであった。



艇に戻ってから日本からの焼酎を飲みながら晩を楽しむ。波の音すら聞こえない入り江の中で就寝前に皆さんで星空を眺める。東西に延びる天の川が良く見えた。

9 月 11 日(火)Lavsa~Trogir (43NM) 快晴

夜明けと同時に起きて 07:15 にブイの舫いを取り静かな湖面のような海に出る。残念ながら風は無く機走で午前中は走る。石灰岩の白い島々の間を沢山のヨットが走っている。又あちこちに点在する入り江にはヨットが錨泊している。

昼前に風がやっと後ろから吹いてきてジェネカーを揚げてエンジンを切り静かな海の上で昼食を頂く。今日の昼食はラタツユ付きのペペロンチーヌとビールであった。快晴の海の上での美味しい昼食であった。

風は期待通り強くならず諦めて機走するがトロギールに近づくにつれて午後の良い風が吹き出し再度ジェネカーで心地よいセーリングをする。

ACI Marina Trogir に舫っていつも通りビールで乾杯をしてから世界遺産の旧市街に繰り出す。ここは島全体が城壁で囲まれた町で南門の海の門から入る。狭い旧市街は様々な教会や歴史的建造物がひしめいている。その中でお店も一杯あり名物の珊瑚の装飾に奥様方

は引き込まれていた。

夕食はイワシのマリネで日本酒を飲み、ダルマチア産ハム、ザウアクラウト、ブロッコリン、カレーを頂く。

9月12日(水)Trogir~Hvar~Palmizana 晴れ

朝食をゆっくり済ませて 09:00 に舳いを解く。

暫く東南東の弱い風をつかんでクローズホールドで走るがその風も弱まり機走にする。カレーの昼食を頂き午後の風が吹き出したので再度クローズホールドで帆走する。島の間をタッククしながら Hvar の南西に位置するパクレニ諸島のナチュラルリストの Jelolim 島を覗いて Hvar の港に入る。

係留をお願いするとこのマリーナスタッフが、今晚南風が強く吹くので電気、水道が使える岸壁はうねりが入り良くないとの事で 2.5NM 離れた島にある ACI Marina Palmizana に変更する。15:45 にパルミザーナに舳いを取る。ポンツーンは大分空いていたがその後続々とチャーターヨットが入港してくる。我々の後 50 艇近く入港した。

今晚から低気圧の接近による悪天のため錨泊予定の艇がかなりマリーナに移動してきたためかと思う。

大変海の綺麗な入り江の中のマリーナに約 200 艇位のヨットが係留されていた。係留した後、島を散歩してレストランに夕食の予約をする。

小田切さんがご夫妻結婚 55 周年のお祝いとヴェネチアからの 2 週間の無事航海をお祝いと云うことで今日の夕食は小田切さん自ら皆さんにご馳走してくれることになった。



19 時にレストランに行ったがお客さんが殆ど居なかったが 20 時過ぎから込んできて 15 席ぐらいのテーブルが満席となっていた。

海の幸カルパッチョ、グリルドカラマリ、ポークメダリオントリフソースかけ、ラムのローストをハウスワインで頂く。オーダーしてあったマンゴーが来なかったので確認したら忘れていたとの事、今から持ってくるかと云う事だったので頼むと、何と果物のマンゴーでなく、ホウレンソーとジャガイモのごった煮であった。

今晚は強風と云うことであったが夜中雷光があちこちであったが風はさほど吹かなかった。

9月13日(木)Palmizana 曇り時々雨

明日まで低気圧の通過で天気が悪いので15日までここに滞在することになっている。昨日フヴァルに行けなかったので10:30に水上タクシーで出かける。15分ぐらいで到着する。往復で一人100KN(約1300円)だった。

生憎の天気だったのでタクシーでお城の上まで上がり、フヴァルの港、町の全景そして前方に広がるパクレニ諸島の展望を楽しむ。私は2度目だが前回同様きれいな眺望であった。下りは歩きで展望を見ながら旧市街地に抜ける。狭い道にはアクセサリーを中心とした店が並び女性陣は買い物を楽しむ。

15:00に迎えの水上タクシーで戻る。帰ってからゆっくり小田切さんは釣りをしたり、皆さんはおしゃべりをしたり昼寝をしたりして夕暮れまでゆっくり過ごす。

夕食は純日本風とすることにした。インゲンの胡麻和え、ニンジンの卵とじ、タケノコの土佐煮、大豆ひじき、カッテージチーズの和風仕立て、鉄砲胡瓜を日本酒の温燗で頂き、佃の佃煮と海苔をご飯とみそ汁で仕上げる。小田切ママと佐和子さん、悦子の素晴らしいお料理を皆さんで満喫する。至福の時間をパルミナザの静かな入り江のマリーナで頂く。